

令和 3 年度総合計画審議会 議事録

と き : 令和 3 年 9 月 17 日 (金) 午後 1 時～1 時 50 分

ところ : 池田町役場 大会議室

1 出席者

【委員】

宮崎鉄雄 会長 井上賢一郎 副会長 平林康男 委員 森泉恵子 委員
山本 勇 委員 小澤裕子 委員 山田 淳 委員 吉村光代 委員
土屋征寛 委員 牛越邦夫 委員 赤田弥壽文 委員

(欠席：綿貫幹雄 委員)

【池田町】

<理事者・課長・担当者>

町長 甕 聖章 産業振興課長 宮澤 達 産業振興課農政係長 滝沢健彦

<事務局(企画政策課町づくり推進係)>

課長 大澤 孔 係長 塩原 長 振興担当係長 丸山佳男 係 望月絢介
(株)KRC 長峯史弥(委託業者)

2 次第

(進行：企画政策課長)

1 開 会 (副会長)

2 会長あいさつ(会長)

3 議事(進行：会長)

(1) 国土利用計画(案)について(町づくり推進係)

資料：国土利用計画(案)、意見にて説明

質疑応答(詳細は議事録に記載)

(2) 地方創生推進交付金事業の評価

資料にて説明

質疑応答(詳細は議事録に記載)

4 町長への答申(会長)

5 閉会(企画政策課長)

3 議事録（質疑応答 要約）

国土利用計画（案）

<井上副会長>

パブリックコメントの説明のなかで、横文字をなるべくわかりやすくするということがよいと思う。7 ページの赤字で直した ICT についても情報通信技術などと括弧書きしていただけるとよりよいと思う。

<丸山振興担当係長>

おっしゃる通り。用語の補足説明というかたちで対応したい。

地方創生推進交付金事業

<牛越委員>

事業評価をどうするかたちで議論をして、どういう評価をするかということをもってお聞きしたい。

<塩原係長>

KPI 等に対して委員の皆様から、もっと頑張るべきだったとか、コロナの影響がどうだというようなご意見をいただければと思う。国のお金をいただいている事業は令和 2 年度までになっているが、総合計画のなかでもこのような海外販路推進については掲載しているので、引き続き事業としては残っていくと思われる。今後どのようにしていくべきかご意見をいただければと思っている。

<山本委員>

KPI の達成状況は 30%、60%、判定が C と B とあるが、今後も事業を続けていくということだが、判定や達成状況を上げる見通しはあるのか。

<大澤課長>

この計画は 5 年前に安曇野市と松川村と池田町の担当者が集まって作成した。その際はコロナ禍ではなかったので、最終的に安曇野地域で年間 15,000 人以上の観光外国人が泊まるようになるとよいということで目標値を設定した。

ただ予想外のことが起こり 30%程度に留まってしまったが、コロナ禍でなければ 5 年間の事業計画のなかで達成できたのではないかという手応えをもっている。このような不測の事態が起こり、それぞれの事業も満足に遂行、実施できなかったという部分もある。今後は町の予算の許すなかで、せつかく足がかりができたので、すべてについては難しいかもしれないが取捨選択しながら事業を推進できればよいと思っている。

<赤田委員>

KPI の 1 番で、令和 2 年度の安曇野市と池田町と松川村の 3 つ合わせた外国人宿泊者数が 4,561 人ということか。

令和 2 年度、池田町は 27 人ということだが、令和元年度は何人だったのか。

<大澤課長>

124 人である。

<赤田委員>

池田町には宿泊するところが少ないが、27 人はどこの国の人がどちらに泊まれたのか。何かそういった細かいデータみたいなものはあるのか。

<宮澤課長>

どこの国かまではわからないが、ほとんどが八寿恵荘に泊まれたと思う。

<赤田委員>

これを使って地方創生をしていくということは、町も総合計画で力を入れてやるということになると思うが、27 人が実際に八寿恵荘に泊まったということであれば、令和元年度分、令和2年度分を含めてデータを基に分析をして、来年はどのようにするかということは、誰が担当して推進していく仕組みになっているのか。

<宮澤課長>

主に町の観光係が分析をして、生かしていくということになる。

<赤田委員>

コロナ禍で皆が苦しんでいるのはわかるが、そのなかで対策を打ち、実行するチームがよりよくしていくとしたら、KPI の3項目の数字が上がっていくと考えてよいか。観光協会の担当者だけの力量で、この3つの数字はお金をかけた分だけきちんと数字が上がってくるというように認識しているということか。

<塩原係長>

3つの KPI については基本的に推進交付金事業上の KPI になっていて、今後の追跡調査のような部分で国へ報告をするのかと思う。町としてはこれらの KPI にこだわらず今後どのように取り組んでいくかを考えていかなければいけない。

<宮澤課長>

推進という部分については主に観光係であるが、それぞれの部署が連携して取り組んでいくということになるかと思う。事業が進むなかで色々変わったかもしれないが、当初この事業に取り組むときは松本市や白馬村には非常に外国人のお客さんが来ているが、安曇野市や池田町や松川村には来ないということで、色々な農産物やお酒に特化して取り組むことにより、そちらの方からも流れを作りたいというようなこともあった。

どちらにしても観光だけではなく色々な係や他団体の方も含めて推進していくことになると思う。

<赤田委員>

要望としては、国からの支援は貴重な税金を使っているので、結果をみて対策を打ち、次はどのように手を打っていくかを考えないといけないと思う。

そのときに推進役となる戦略を考える人と戦術的に戦う人がはっきりしていないと、ある意味やろうとしてることはどこの市町村でも同じで、池田町が他の市町村に負けにくいぐらいの特別性があるようには感じられない。かなり戦略的なことを考えて邁進しないといけ

ないとしたら、やはり手立てを考える、方法論を考えるところをもう少ししっかりしないと、コロナ禍を理由に数字が下がったのをそのままよしとする感じがするので、もう少し何か体制を考えたほうがよいと感じた。

<平林委員>

特産品ということであるが、内容的にはお酒に絞ったということか。

<滝沢課長補佐>

昨年についてはお酒ということで進めさせていただいた。この事業は取りかかりから昨年で5年間、どこの国をターゲットにするかということも含めて取り組んできた。池田町の場合、事業展開としては大手の商社と契約して直接スーパー等に卸して売ほどのロットがないということで、もう少しプレミアムというか、高い値段で富裕層向けに売っていけばよいのではないかとということで、現地の信用できる輸入業者とタイアップをしてパイプを作り輸出に繋げていきたいと考えた。その足がかりとして海外で人気のある日本酒を軸にして日本の食材、農産物も併せてPRしてきている。最終年度（令和2年度）になり、人の往来ができないことや、レストランなどがロックダウン等で開いていないという海外の事情もあり、昨年度は日本酒に特化したということになる。また、安曇野市、松川村と連携で行っている事業があり、これは地域の酒蔵をPRする別事業で2本立ての事業になっている。

<平林委員>

非常にわかりやすい説明ありがとうございました。5年間の事業が終わって、それぞれに色々と反省するところがたくさんあったと思うので、これからどうするかという、今度はおそらく町の事業で一般財源を使うと思うので、ぜひしっかりとつなげていただければと思う。

お酒が出発であったが、将来的に広がるとしたらワイン、また、よくテレビなどで野菜、特に香港の富裕層にはメイドインジャパンの野菜が非常に好まれ、高くても買うということもやっていた。もう少し池田町の特産品を見直し、海外に向けて輸出できるように農協ともタイアップしながらぜひこの事業を進めていただきたい。将来視野の広がる事業だと期待をしているので、ぜひお願いしたい。

<牛越委員>

事業費について、7,202,190円と大変細かく具体的な数字を挙げている。項目別に分けた明細というか内訳を示していただきたいと思う。

<塩原係長>

720万円の内訳は、まず農産物/特産品海外販売プロモーションということで276万円を補助金で1回協議会に支出して、そこから委託料ということで「さとゆめ」という会社に支出している。また、限定日本酒製造/販売支援ということで、補助金50万円を福源酒造に支出している。そして外国人旅行者誘致として外国語サインの製作ということで、残りの394万円となっている。

<宮崎会長>

プロモーション事業が委託事業であり、(2)の関係については日本酒のPR等の経費分50万円を補助、残りはサイン看板、案内板の製作ということでよろしいか。

いくつか今後の対応について話があった。農産物輸出等については、生産者また事業者を主体とした協議会組織で各年の事業計画なども作っているかと思うが、今後も協議会自体は続けていくということによいか。

<宮澤課長>

これで補助事業は終了したので協議会自体は終わる。ただし、バイヤーや各国とのつながりはできたので、そのルートを生かしながら次の展開をしていきたいと思っている。

<宮崎会長>

次の展開は町から先頭に立ってやるということか。

<宮澤課長>

酒蔵とバイヤーとのつながりができ、やはり商取引なので民間同士のつながりというところがお酒に関しては中心になろうかと思う。もし次に農産物などを考えるとすれば町のほうでも考えていきたいと思っている。

<宮崎会長>

もしというのは、積極的に農産物は海外販路に乗せていかないという考え方なのか。

<宮澤課長>

そこまではまだ決めてない。次の展開として農産物もできればつなげていき、またバイヤーなどにも広げていきたいというような考えということである。

<滝沢課長補佐>

農産物はうまくいかなかったかということにも理由があり、ロット数や安定した供給量というものが求められる。そうした体制をまず整えなければ、簡単に海外へという流れになってこない。池田町の農産物、加工品含めて輸出を検討したが、安定供給が出来るお酒を切り口でやらせていただいたというのが理由の一つである。

<牛越委員>

地方創生推進事業は令和2年度で終わっているのですが、いま検証しているということだが、令和3年度からの計画はもう進んでいるのか、まったく計画はなくなったのか。

<滝沢課長補佐>

補助事業が終わったということで、この3件に関しては終わったということである。

<牛越委員>

国の補助金として地方創生推進交付金事業そのものが終わったということか。

<塩原係長>

制度自体はまだ続いている。ただし、地方創生推進交付金の制度上5年が最長ということで、その交付金の対象となる期間が満了したということになる。

<牛越委員>

池田町としては次の事業として、国のそういった方針があるので、それに向けて次のKPI

というか項目等を選んで、国に承認を得る必要があるかと思うがどうなのか。

<塩原係長>

同じ地方創生推進交付金を取りにいくというのであれば、また KPI を設定して、申請するようになる。ただし、同じことをまた 5 年間続けるということはできないことになっている。別の目的で交付金を申請することはできる。

<牛越委員>

やるのかやらないのか。

<宮崎会長>

国の補助が一旦終わったが、令和 3 年度以降は海外販路の開拓事業を継続するのかどうか、しているのかどうかという確認である。

<宮澤課長>

さきほど言ったように酒蔵と現地のバイヤーとのつながりというものができ、そこでうまく取引ができるようになってきていると思うので、そうした意味では事業的には継続性があると考えているが、さきほど言ったような農産物など次の新しい展開がすぐにできるかという、それはむずかしいところもある。

<牛越委員>

安曇野市と松川村と池田町でやっているのだから、この 3 者が今年度からどうするかということは全然話し合ってこなかったのか。

<滝沢課長補佐>

この事業に関しては先ほどから申し上げている通り 5 年間でやるということであった。人流、人の交流についてはコロナ禍の関係で制約を受け、つながらなかったということもあるが、農産物の輸出に関しては商流という言い方で、この商流を生み出すというのが一つの区切りと考えていて、商流は民間ベースで行っていただくのがもともとのスタートだったと思うので、昨年度は来年度以降のことは考えずに令和 2 年度で終わるということで進めてきた。

<赤田委員>

牛越委員の意見にもう一つ付け加えて、このように海外のバイヤーと酒蔵を結び付けたということで、おそらく取引があるだろうということを言っているが、実際に何件あったのか、金額がいくらなのか、数字をきっかけに毎年増やそうとするスタートとしてこれをやったわけであるから、令和 3 年度は、海外と福源酒造がこれぐらいの金額の取引があったとか、大雪溪酒造がこれぐらいの金額をとというような、そういうデータを継続して掴んでいくという町の姿勢はどうかということも牛越委員の意見にあったと思うが、どのように推移を把握する予定なのか。

<滝沢課長補佐>

今年度どのくらい売れているかは当然掴んでいかなければいけないことであり、国の補助金をもらっているので評価がされるということになってくると思う。昨日も福源酒造から毎月注文が入るようになったという話も聞いたりしていて、どの時点で数字を把握するか、

とりまとめるかは決めてないが、少なくとも年度単位でまとめていかなければいけないと思っている。

<土屋委員>

視点が変わり行政的な話になってしまうが、KPI の指標の設定の仕方を感じたこととしては、例えば2 番の海外プロモーションの成果もコロナ禍のなかで 60%、3 番は外国の関係も香港が新たに加わったということで素晴らしいと思う。しかしこの 2 番は、国の関係で安曇野市だけの数字で B 判定ということである。しかし、池田町の実績は 27 人で前年度比 -573 人ということは、600 人が 27 人になったということであれば -95% ぐらいになると思うので、かなり町としては、残念な数字であったという気がする。その場合に町の行政活動を評価する指標として、他の市の結果を用いることは適当なのかという感想をもち、若干の違和感があったので申し上げる。

<宮崎会長>

これについては、国の補助を受ける計画の段階では 3 市町村でやっていこうということでの KPI 設定であって、池田町の単独事業についての KPI は基本的にはないということで理解してよろしいか。

<塩原係長>

はい。国の承認を得ているということで、このような設定になっている。

<宮崎会長>

土屋委員の意見を考えれば、独自事業の部分での観光客数等については、昨年はコロナ禍の影響でできず、誘客等にはつながってないということであるので、今後十分検討していただいて、活かしていただくようお願いをしたい。

一応 5 年間の事業が終わっての事業評価ということで、計画当初の KPI に基づいての評価というかたちになっているので、よろしくお願いをしたい。

以上